

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2006 ～ 2008
 課題番号：18300280
 研究課題名(和文) 開発分野におけるケースメソッドの展開：ニーズに基づく国際連携を目指して
 研究課題名(英文) Development and Application of Case Method in International Development Field : Needs-based Approach
 研究代表者
 山口 しのぶ (YAMAGUCHI SHINOBU)
 東京工業大学・学術国際情報センター・教授
 研究者番号：40345369

研究成果の概要：

本研究は、地域開発に従事している日本人専門家・教育者の仕事における体験をケースとして分析し、指導要領を含めて教材化し、国際開発における人材育成に資することを目的とした。具体的には1) 海外共同研究者との連携に基づき、対象地域および分野を確定、2) 対象地域・分野における問題点を現地調査などから提起し分析、3) トレーニング・ニーズにもとづいたケース作成を実施し、最終的には、4) 開発分野の大学院生、開発専門家ならびに、技術専門家を対象としたトレーニングへの導入を目指す。教育、保健、環境、海洋資源管理、農村開発分野における 13 ケースを現地調査、経験に基づき作成。今後、大学院の講義および国際協力分野の専門家研修において、即戦力となる人材育成のために活用できるケースとその指導要領からなる教材として商業出版する計画である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2007 年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2008 年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
年度			
年度			
総計	14,000,000	4,200,000	18,200,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学 ・ 教育工学

キーワード：国際開発・ケースメソッド・教材開発・地域開発・人材育成・持続可能な開発

1. 研究開始当初の背景

国際開発プロジェクトは分野・地域共に年々多様化している。これに伴って、プロジェクトの準備・計画・実行・評価の各段階において、現地におけるニーズの把握や国際連携などが困難さを増し、プロジェクトを運営する

うえで、従来以上に多様で複雑な問題が発生していることが報告されている。こうした状況に対応すべく、欧米の教育研究機関は競って「ケースメソッド」教授法を高等教育・人材育成分野に積極的に取り入れている。一方、日本の高等教育機関の国際開発分野への参加は年々増加しているが、上記

の欧米に匹敵する教育にリンクした包括的な取り組みは未だなされていないのが現状である。こうした背景を得て、日本人専門家の国際開発に関する機会が、今後さらに拡大・多様化することが予想される状況を鑑み、日本の高等教育機関がケースメソッドを積極的にカリキュラムの主軸とし、開発のニーズに柔軟に対応できる人材育成の一翼を担うことを望むものである。

2. 研究の目的

本研究は、地域開発に従事している日本人専門家・教育者の仕事における体験をケースとして分析し、指導要領を含めて教材化し、国際開発における人材育成に資することを目的とした。

具体的には下記の四つのプロセスを果たした。1) 海外共同研究者との連携に基づき、対象地域および分野を確定する、2) 対象地域・分野における問題点を現地調査などから提起し分析する、3) トレーニング・ニーズにもとづいたケース作成を行う、4) 開発分野の大学院生、開発専門家ならびに、技術専門家を対象としたトレーニングへの導入を実施する。

3. 研究の方法

1). アジアを中心として開発プロジェクトの現状に関する背景調査と分析

- a. UNESCO、国際開発学会、環境科学会、水資源・環境学会、日本国際保健医療学会、アジア政経学会、比較教育学会による社会的、計画的な研究集積の分析を行ない、地域開発が直面している問題、開発手法について明らかにした。
- b. 各レベルの政府が関連する政策調査、ヒアリング調査を通して、当該地域における開発政策を把握し、それらの枠組みの持つ意味と可能性・問題点を体系的に整理した。

2) 文献・聞き取り調査による現地でのニーズ調査

- a. 文献・聞き取り調査によって事例の収集とその背景である社会統計データの収集・分析をおこない、海外研究協力者へ現地におけるラウンドテーブル、インタビューなどの協力依頼
- b. 現地では、通常の聞き取り調査に加えて、海外共同研究者にファシリテータ(進行係)をつとめてもらい、ターゲットグループを対象に参加型手法を用いたワークショップを開き、ニーズの把握
- c. 同時に、各分野において地域・焦点を

定めるべく連携機関を明確にし、専門家(国内、国際機関における共同研究者、執筆者)参加のワークショップを開催し、現地調査に基づく現状問題分析

3) ニーズ分析

ニーズアセスメントの調査結果を基に次の3項目に沿って情報分析を行なった。

- ① 現状分析
- ② ステーク・ホルダー分析：関係者／関係機関について、担うべき責任と実際の役割の乖離・原因について分析
- ③ 問題の提起：開発における技術面、人材面、文化的側面、制度的側面に分類しながら構造的欠陥を分析

4) ケース執筆のための現地調査補充

トピックスの例

- ① 途上国における国際連携の困難さ(モンゴル)
- ② 沿岸資源管理のための規制実施の困難さ(フィリピン)
- ③ コミュニティ開発における社会資本の役割(中国)
- ④ 健康的な地域づくりのためのシステム構築の困難さ(タイ・スリランカ)

5) 教材の開発

現地調査に基づき、共同研究員および、執筆協力者を含め、全13ケースを教材として開発した。

1. 僻地の学校における遠隔教育教材の開発・導入(山口しのぶ)
2. 「参加型」って「誰」のこと?(西野桂子・相馬真紀子)
3. 「少数民族による少数民族のためのプロジェクト」の理想と現実(矢野智子・山口しのぶ)
4. 沿岸開発のはざままで零細漁民にできることはなにか(川辺みどり)
5. イルカを捕るのは・・・?(川辺みどり)
6. イルカを保護するために貿易制限を行うことは許されるかー 東部太平洋マダゴ・イルカ紛争ー(稲本守)
7. 生活スタイルを変えることは可能か?(樋口まち子)
8. 木を植えようとして森を破壊することがあるのかー内戦・津波復興に向けた持続可能な開発援助ー(樋口まち子)
9. コルト王国のエイズ対策～地方の病院

- で起きた薬剤供給問題から～（李祥任）
10. 活動は誰のためのもの？（村山智子）
 11. 「もう援助はいらない！」—農業灌漑から老人協会に転換したプロセスとは？—（阿古智子）
 12. 「嫁」はエイズだった！—砂埃たれこめる山村では、今—（福原毅文）
 13. あなただったらどうする？HIVをめぐって（村山哲也）

4. 研究成果

教材の開発及び出版準備

上記の現地調査に基づいて作成したケース教材を用いてケースメソッド研修を行い、その評価によって教材としての質を高めた。

- (1) 協力者間会合にて、ケースの教材としての可能性について議論
- (2) 教材の評価を各自で、研究協力者を含めた専門家によるレビュー及び、実際に大学院の講義・専門家研修などで試験的に用いて受講者による評価を実施
- (3) (2)の結果をふまえてさらに改良し、同時に指導要領を作成
- (4) (3)の結果を、「ケースで学ぶ国際開発」としてまとめ、開発分野における人材育成のための教材として出版する準備を行なっている

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

- ① Midori Kawabe, Hiroshi Kohno, Takshi Ishimaru, Osamu Baba, Naho Horimoto, Reiko Ikeda, Jota Kanda, Takafumi Kudoh, Masaji Matsuyama, Masato Moteki, Yayoi Oshima & Tsuyoshi Sasaki, “Education for Sustainable Development for Tokyo Bay: Developing a Practice Framework of University-based Coastal ESD” *Marine Policy*, 査読有, vol. 33, pp. 720-725. 2009
- ② Steve Flethcfer, Midori Kawabe, Sonja Rewhorn, Chun Knee Tan, Andrew Emery, Kazumi Wakita, Mark Sturgess, Keita Furukawa, Zoë Castle & Felicity E.C. Flanagan Dufton “International Learning Pathways for Coastal Professionals: A Japan-UK Example” *Coastal Management*, 査読有, vol. 37, pp. 154-169. 2009

- ③ 川辺みどり, 「参加型資源管理のキャパシティ・ビルディングにおけるケース・メソッドの可能性」, *漁業経済研究*, 査読有, 2009
- ④ 山口しのぶ, 「モンゴル僻地における遠隔教育教材の導入に関する考察：国連人間安全保障基金プロジェクトからの教訓」*日本比較教育学会 第 44 回大会発表論文収録* 査読有, p. 322-323 (2008. 06)
- ⑤ 阿古智子, 「中国農村における権力構造と関係ネットワーク——基層をめぐる政治・社会学に注目して——」『現代中国の社会変容と国際関係』（西村成雄・許衛東編）査読無, pp. 49-65, 2008
- ⑥ 川辺みどり, 「国連ミレニアム生態系評価における沿岸システムの評価と課題」, *漁業経済研究*, 査読有, 第 52 巻第 1 号, pp. 177-196, 2007
- ⑦ 川辺みどり, 「『緑のさかな』を食べる—社会変革を求める水産物購入」, *地域漁業研究*, 査読有, 第 47 巻第 1 号, pp. 177-196, 2007
- ⑧ 阿古智子, 「中国における流動人口の周縁化に関する一考察—北京市の零細サービス業出稼ぎ労働者の就業・生活実態と意識に関する調査報告—」, 『姫路獨協大学紀要』（姫路獨協大学）, 査読無, 3 月・第 20 号, pp. 91-120, 2007
- ⑨ 阿古智子, 「農村からみる中国の社会矛盾」（第 6 章）, 『グローバル化のなか、大国中国の明日を読み解く大学提携【ひょうご講座】2006 年度版 日中関係の新しい角度～開かれた市民フォーラムへ～10 人の講師からの提言』竹内実・関西日中関係学会編（桜美林大学・北東アジア総合研究所）, 査読無, 全 134（内、第 6 章担当）, 2007
- ⑩ 山口しのぶ, 矢野智子, 「モンゴル農村部における教育の質的向上：国連・ユネスコプロジェクト評価結果からの政策提言」*日本評価学会第 7 回全国大会論文集*. 査読有, (2006. 12)
- ⑪ 山口しのぶ, 高田潤一, 「モンゴル国における教員研修プログラムへの遠隔教育メディアの導入」第 17 回国際開発学会全国大会報告本文集. 査読有, pp. 102-105, (2006. 11)
- ⑫ 阿古智子, 「日本水田農業中“村落営農”的發展」『三農中国』（湖北人民出版社）, 査読無, No. 5, pp. 140-148, 2006
- ⑬ 阿古智子, 「混乱する上海の学校経営」『世界週報』（時事通信社）, 査読無, 8 月 1 日号, pp. 28-31, 2006
- ⑭ 阿古智子, 「格差と差別にあえぐ農民、出稼ぎ労働者」, 『エコノミスト』（毎日新聞社）, 査読無, 10 月 9 日臨時増刊号, pp. 104-107, 2006

〔学会発表〕(計 9件)

- ① Yamaguchi, S., Onodera J., Baterdene, R., and Khishi, O., “Training Needs Assessment for School Principals in Mongolia: Preliminary Findings”, Conference Proceedings, CD-Rom, 53rd Annual Conference on Comparative and International Education Society, Charleston, USA (22. March 2009).
- ② Yamaguchi, S., “Application of distance learning materials in rural Mongolia”, Conference Proceedings, CD-Rom, 53rd Annual Conference on Comparative and International Education Society, Charleston, USA (22. March 2009)
- ③ Kawabe, Midori, “The Case Method Workshop—an Effective Way to Share Coastal Experience”, the 5th World Fisheries Congress, Oct. 20-24, 2008, 2008年10月23日, 横浜
- ④ Kawabe, Midori & Edomae ESD Council “Education for a Sustainable Tokyo Bay: Learning through a University and Coastal Communities Partnership”, the Coastal Society’s 21st Biennial Conference, June 29-July 2, 2008, 2008年7月1日, Redondo Beach, CA, 米国
- ⑤ Kawabe, Midori, “Akkeshi: a Small Town’s Coastal Zone Management Challenges”, the Coastal Society’s 21st Biennial Conference, June 29-July 2, 2008, 2008年6月29日, Redondo Beach, CA 米国
- ⑥ Yamaguchi, S., Baterdene, R., Enkhtuya, N., “Enhancing Equity in Rural Education in Mongolia”, Panel Organized at Comparative and International Education Society 52nd Annual Conference, Conference proceedings, Columbia University, New York, (19. March 2008)
- ⑦ Martins. R., and Yamaguchi, S., “Sustainability promotes equity in Mongolia: Analysis on sustainable factors in rural teacher training”, Comparative and International Education Society 52nd Annual Conference, Conference proceedings, Columbia University, New York, (19. March 2008)
- ⑧ 阿古智子, 「血液管理・HIV問題を通して考える中国の政治・社会変動」, 外務省平成19年度日中知的交流事業『多元化社会における政治参与チャンネルに関する日中共

同研究～アパシー状況下のガバナンス～
2007年12月8日, 法政大学

- ⑨ 阿古智子, 「ポスト鄧小平時代の中国農村における権力構造と関係ネットワーク～基層をめぐる政治・社会学に着目して」, 現代中国の社会変動と東アジアの新環境, 2007年8月28日, 南開大学(中国・天津市)

〔図書〕(計 1件)

- ① 樋口まち子, 真興交易医書出版部「災害看護と異文化理解 グローバル災害看護マニュアル」, pp. 102-115, 2007

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口 しのぶ(YAMAGUCHI SHINOBU)
東京工業大学・学術国際情報センター・教授
研究者番号: 40345369

(2) 研究分担者

川辺 みどり (KAWABE MIDORI)
東京海洋大学・海洋科学部・准教授
研究者番号: 80312817

樋口 まち子 (HIGUCHI MACHIKO)
国立国際医療センター・研究員
研究者番号: 40335584

阿古 智子 (AKO TOMOKO)
学習院女子大学・国際文化交流学部・准教授
研究者番号: 80388842

(3) 連携研究者

なし